

タイトル	岐阜県の文化の形成とその観光利用		
所属	外国語学部アジア学科 張ゼミ	氏名	早川愛那

## 1. 研究目的

- 岐阜県に存在する“関西寄りの文化”を明らかにする
- 岐阜県における文化形成の歴史を探る（流入、融合、形成）
- 岐阜県特有の文化を見い出す

→“影の薄い岐阜県”からの脱出  
観光業への活用、“よくある観光地”からの脱出



白川郷（岐阜県白川村）

## 2. 研究背景

小中学生時代を岐阜県下呂市で過ごし、高校時代を岐阜県恵那市で過ごす  
現在愛知県名古屋市に住む

→岐阜県に関西寄りの文化が色濃いことに気づく。（特に飛騨地方）  
「名古屋の植民地」とまで言われる岐阜県の特有の文化を探ろうと考える

飛騨地方には下呂市や高山市などの観光地が存在するが“よくある田舎の観光地”という感じ  
Ex) 古い街並み、写真映えするプリンやドリンク、肉寿司、温泉…

→岐阜県らしさを出せないものか？



モネの池（岐阜県関市）

## 3. 検証方法

- 下呂市観光案内サイト・下呂市役所観光課にて情報収集  
→下呂市の観光業の現状把握
- 先行研究の収集、検討  
（岐阜県の文化について、関西文化との接点に関わるもの）
- 飛騨地方の図書館で歴史的資料の収集  
→主に関西文化流入の歴史を探る、愛知県との関係
- 観光利用への提案  
→食文化、建築物、言語

最終的に…

岐阜県の観光業が岐阜県らしさを活用できるような研究を目指す



古い街並み（高山市）